

一 茨城県植物園 立て看板の文

「万葉植物のご案内」

(文責 田村、監修 川嶋・安見) より

1 キキョウ (万葉名 あさがほ [朝杲・安佐我保] キキョウ科の多年草) 二

あさがほは 朝露負ひて 咲くといへど

夕影にこそ 咲きまさりけれ

万葉集 卷・十・二一〇四

(作者) 不詳

(歌意) キキョウの花は朝露を浴びて咲くといいますが、夕日のなかだと更に美しく見栄えがします。

(植物)

「あさがほ」はアサガオ等の諸説があるが、ここは「キキョウ」説をとる。

秋の七草 (萩・尾花・葛花・撫子・女郎花・藤袴・桔梗)

別名 むらさきばな

薬用 牛蒡状の白い根を乾燥させたものを桔梗根といい、サポニンを含み咳止め、

痰きり等によい。

食用 韓国では根を漬物や山菜として使用する。

花の期間 七月～九月 (さみだれ桔梗は五月開花)

花言葉 誠実、清楚な美しさ

2 ムクゲ (万葉名 あさがほ [朝容兒・安佐我保] アオイ科の落葉低木) 二十

こいまろび 恋は死ぬとも いちしろく

色に(は)出でじ 朝顔の花

万葉集 卷・十・二二七四

(作者) 不詳

(歌意) 恋しさのあまりころげまわって死のうとも、はつきりと顔色に出すようにはしません

まい、ムクゲの花のようには。

(植物) 中国・インド原産

韓国の国花

茶道はこのはかなさを尊び茶花の神髄とした(樹木全体としては次から次へと新しい花が咲く)。華道では一日花(僅花一日の栄)として嫌う。

用途 庭園樹や花材として使用する。(白花底紅八重等)

薬用 白花の蕾の干したものを(木僅花)を胃、口内炎、下痢止め等に使用する。

花の期間 七月～十月

花言葉 新しい美、信仰

3 アセビ (万葉名 あしび [馬酔木・安之婢] ツツジ科の常緑低木) 十四

我が背子に 我が恋ふらくは 奥山の

あしびの花の 今盛りなり

万葉集 卷・十・一九〇三

(作者) 不詳

(歌意) あの人を私が恋している思いは、山奥で人知れず咲いているアセビの花のように

人は知らないでしょうが、今が盛りで切ないのです。

(植物) 日本原産(東北以南に分布)

有毒植物で葉に毒があり、呼吸器系を麻痺させる。牛馬は、匂いがあり直接には食べないが、時に飼料(かいば)に交じって誤って食べてしまうと、酔っぱらった状態になるため、「馬酔木」の名がある。

薬用 乾燥した葉茎の煎じ汁は殺虫剤として使用。寄生虫駆除の飼料となる。  
花の期間 九月

4 アセビ (万葉名 あしび [馬酔木・安之婢] ツツジ科の常緑低木) 十四の二

磯の上に 生ふるあしびを 手折らめど

見すべき君が ありと言はなくに

万葉集 卷・二・一六六

(作者) 大来皇女

(歌意) 磯のほとり咲いているアセビを手折ってはみたのですが、見せて喜んでもらえるはずだったあなたはもうこの世にはいないのですね。

(植物) 日本原産 (東北以南に分布)

有毒植物で葉に毒があり、呼吸器系を麻痺させる。牛馬は、匂いがあり直接には食べないが、時に飼料(かいば)に交じって誤って食べてしまうと、酔っぱらった状態になるため、「馬酔木」の名がある。

薬用 乾燥した葉茎の煎じ汁は殺虫剤として使用。寄生虫駆除の飼料となる。  
花の期間 九月

5 ヒガンバナ (万葉名 いちし [壹師] ヒガンバナ科の多年草) 七

道の辺の いちしの花の いちしろく

人皆知りぬ 我が恋妻を

万葉集 卷・十一・二四八〇

(作者) 不詳 (人麻呂歌集)

(歌意) 道ばたに咲くヒガンバナの花が赤く目立つように、はつきりと人々は知っていました。私の恋しい妻のことを。

(植物) 「いちし」はイタドリ、クサイチゴ、エゴノキ等の諸説があるが、ここは「ヒガンバナ」説をとる。

日本では墓地や土手などに多く生育するため死人花(しびとはな)と呼ばれるが外国では園芸種として人気がある。全体にアルカロイドのリコリンを含み有毒植物とされるが、外用としても用いられる。

別名 リコリス、曼珠沙華(マンジュシャゲ)の意味は赤い花(天上の花)  
薬用 ラツキョウに似た鱗茎を潰して、浮腫あるいは皮膚病に外用する。

花の期間 九月  
花言葉 悲しい思い出

6 ウツギ (万葉名 うのはな [宇能花・宇能波奈] ユキノシタ科の落葉低木) 十九

卯の花も いまだ咲かねば ほととぎす

佐保の山辺に 来鳴きとよもす

万葉集 卷・八・一四七七

(作者) 大伴家持

(歌意) ウツギの花もまだ咲かないのに佐保の山にはもうホトトギスが来て鳴きたてています。  
(植物) 日本原産  
幹が空洞なのでウツギ(空木)の名がある。また、旧暦の四月頃に咲くため「卯の花」とも呼ばれる。(ツクバネウツギはスイカズラ科で別種)

用途 幹(木質)は極めて堅く木釘や樽の栓に使用する。樹勢が強く強度の刈り込みに耐えるため、関東では農地などの境界木等に利用し古くは「うつぎ苗」と言われた。

薬用 枝葉は解熱解毒、果実は乾燥して利尿剤として使用する。

花の期間 五月～六月

花言葉 思いやり

7 ノイバラ (万葉名 うまら「宇万良」バラ科の落葉低木) 二十七

道の辺の 茨の末に 延ほ豆の

からまる君を はかれか行かむ

万葉集 卷・二十・四三五一(防人歌)

(作者) 丈部 鳥

(歌意) 道のわきに生えているノイバラの枝先からまるつる豆のように、私にまわり

ついて離れないあなたを残して旅立たなければならぬのでしょうか。

(植物) ノイバラの名は野山に多く自生し、枝や幹にイバラ(棘)があることからこの名

が付けられた。通称「ノバラ」の名で親しまれ、北半球に広く分布している。

「茨城」の名の語源であり、茨城県章のモチーフとなっている。

用途 花びらは花酒(改良酒)あるいは香水の原料、栽培種の台木として使用する。

薬用 果実(営実)は利尿剤、浮腫の外用剤等に使用する。

花の期間 四月

花言葉 詩、才能、恋、厳しさ

8 リンドウ (万葉名 おもひぐさ「思草」リンドウ科の多年草) 四

道の辺の 尾花が下の 思ひ草

今さらさらに 何をか思はむ

万葉集 卷・十・二二七〇

(作者) 不詳

(歌意) 道端の尾花の下に隠れて物思うように咲いているリンドウ(思ひ草)ではありませんせんが、今更さらに何を思うことがありましようか(ずっと心の中で思い続けていますのに)。

(植物) 思草は南蛮煙管説が有力だがこの「リンドウ」説もすてがたい。高山植物的イメージが強いが温帯域にも広く分布している。切り花で花屋に並ぶのは「エヅリンドウ」の改良種である。

薬用 根を竜胆(りゅうたん)といい、名前はこれが国語化してリンドウになった。

(竜胆は、葉は竜葵(りゅうき)に似て味が肝(きも)のように苦いことからきた)

根は漢方西洋医学共に広く知られ、十三の効能があるとされ健胃剤、尿のにごり等に使用する。また健康酒等にも使用する。茨城、長野、秋田に自生し、昔は竜胆の主産地だった。

民俗 馬子が客を乗せる馬の首飾りにしてもてなした。  
花の期間 九月～十一月  
花言葉 悲しみのあなたを愛する

9

カタクリ (万葉名 かたかご〔堅香子〕ユリ科の多年草)

十七

ものふの 八十娘子らが 汲みまがふ

寺井の上の 堅香子の花

万葉集 卷・十九・四一四三

(作者) 大伴家持

(歌意) たくさんの少女たちが入り乱れて水を汲んでいるお寺の井戸のほとりのカタクリの花よ。

(植物)

片栗粉の語源で鱗茎(根)に沢山の澱粉を含んでいる。その根をすりつぶしたものがカタクリ粉で、今はほとんどがジャガイモから作られている。

食用 葉は生のまま天ぷら、油炒め、鱗茎は甘煮、花は茹でて三杯酢等に使用する。但し、現在は自然保護のため採取不可地が多い。

薬用 粉を擦り傷、おでき等にすり込んで使用する。

花の期間 三月～五月

花言葉 熱心、嫉妬、日陰の恋

10

カツラ (万葉名 かつら〔楓〕カツラ科の落葉高木) 七十九

向つ峰の 若楓の木 下枝取り

花待つい間に 嘆きつるかも

万葉集 卷・七・一三五九

(作者) 不詳

(歌意) 向こうの峰に生えている若いカツラの下枝を採ってきて花が咲くのを待っていました。だが、待ちくたびれてため息が出てしまいました。

(植物)

日本原産(我が国固有の雌雄異体)

香出(かづ)が名前の由来ともいわれるが不明。紅葉の葉のみ芳香する。

用途 庭木、建築材、家具、楽器、鉛筆、基盤、将棋盤に利用される。

花の期間 四月～五月

11 シラカバ (万葉名 かにには「桜皮」カバノキ科の落葉高木) 八十二

あぢさはふ 妹が目離れて しきたへの  
枕もまかず かにには巻き 作れる舟に  
ま梶貫き わが漕ぎくれば…

万葉集 卷・六・九四二

(作者) 山部赤人

(歌意) 妻と離れて手枕もせず、シラカバの皮を巻いて作った舟に梶を通して

漕いでくると…。(古くはシラカバの皮は、防水材として使われた。)

(植物) 「かにには」は桜類と樺類の二つの説があるが、ここでは樺類をとる。

寒い地方で高原の代表的な樹木。  
用途 庭木、街路樹、建築材、燃料等に利用し、樹皮は細工物になる。

食用 樹液を発酵させて酒(北欧)にする。

薬用 樹皮はかいせん、黄疸に良い。若葉は養毛、利尿。樹液は精力、

滋養強壮等になる。

花の期間 四月～五月

12 ウワミズザクラ (万葉名 かにには「桜皮」バラ科の落葉高木) 八十六

あぢさはふ 妹が目離れて しきたへの

枕もまかず かにには巻き 作れる舟に

ま梶貫き わが漕ぎくれば…(長歌)

万葉集 卷・六・九四二

(作者) 山部赤人

(歌意) 妻と離れて手枕もせず、ウワミズザクラの皮を巻いて作った船に

梶を通して漕いでくると…。

(植物) 「かにには」は桜類と樺類の二つの説があるが、ここでは桜類をとる。

暖地産 (花は観るに足らずとあるが、材は古くより宮中儀式の大嘗祭等に  
使用される貴重な樹種)

通常の桜の花と違い、細かい花がブラシ状に集まって咲く。

用途 庭木、街路樹、建築材、燃料等。樹皮は細工物等に使用する。

食用 蕾や果実は房のまま塩漬けでおつまみ、果実酒等に利用する。

薬用 皮膚薬として利用する。

花の期間 四月～五月

花言葉 従順、真実の心をささげる。

13 カエデ (万葉名 かへるで「蝦手」カエデ科の落葉高木) 十二

我がやどに もみつかへるで 見るよとに

妹をかけつつ 恋ひぬ日はなし

万葉集 卷・八・一六二三

(作者) 大伴田村大嬢

(歌意) 私の庭のまつ赤に色付いたカエデを見るたびに、あなたの事が気にかかって、恋

しいと思わない日はありません。

(植物)

葉が蛙の手に似ていることから「かえるて」(蛙手)の名ができ、さらに「る」が脱落して、カエデとなった。また葉が赤く変化するため「紅葉(もみじ)」の名前もある。「もみじ」とは色が変わることの総称である。

薬用 ハナカエデの名前で呼ばれる目薬の木などは、樹皮、枝を乾燥させたものを目薬、肝臓薬として使用する。

用途 幹材は変木の床柱など建築材、器具材、盆栽等に利用する。

花の期間 四月～五月

14

カラタチ (万葉名 からたち 「枳」ミカン科の落葉低木)

九十六

からたちの 茨刈り除け 倉建てむ

屎遠くまれ 櫛造る刀自

万葉集 卷・十六・三八三二

(作者)

忌部首

(歌意)

カラタチのとげのある木を刈りとって、そこに倉を建てましょう。だからウンチをするなら遠くへ行つてしなさい。櫛を作っているおばさんたちよ。

(植物)

中国原産(暖地では野生化している)

枝に鋭い刺があり、泥棒避けに生け垣等に使用され、古くは親しみにくい木の代表、葉は揚羽蝶の幼虫が好み、北原白秋の童謡歌「からたちの花」でも使われており、今ではロマンに満ちた詩的な植物にイメージチェンジをした。

用途 庭木、ウンシュウミカンの台木等

薬用 実、葉ともに浴用に良く、果実は苦いので食用にはならないが漢方名を穀(きこく)と言い健胃剤、肌荒れ防止等に使用される。(実はアルコール

漬けで保存できる。)花は芳香性の精油が採れ、葉は揉んで凍傷に良い。

花の期間 四月～五月(結実は十月)

15

ニラ (万葉名 くくみら 「久君美良」ユリ科の多年草)

三

伎波都久の 岡のくくみら われ摘めど

籠にも満たなふ 背なと摘まさね

万葉集 卷・十四・三四四四 (東歌)

(作者)

不詳

(歌意)

「きはつく」(地名:常陸国真壁郡か)の丘のニラを私は摘んでいます、なかなか籠が一杯になりません。それなら、あの方と一緒に摘みなさいよ。

(問答歌とする説をとって訳す)

(植物)

中国原産

臭いが強く、ニンニク・ネギ・ヒル・ラッキョウと共に五葷(ごくん)のひとつ。

食用 栽培種(野菜)があり餃子、味噌汁の具等に使用する。(戦前は利用が少なかつたが、戦後急激に生産消費が進む。)

薬用 健胃、下痢止め、腰痛等の効果がある。

花の期間 七月～九月

16 クワ (万葉名 くは「桑」クワ科の落葉高木) 十一

たらちねの 母がそのなる 桑すらに

願へば衣に 着るとふものを

万葉集 卷・七・一三五七

(作者) 不詳

(歌意) 母が生活の資を得ている桑の葉でさえお願いすれば着物にして着ることができのに。(どうしてあなたは私のものにならないのでしょうか。)

(植物) 中国原産 (養蚕技術と共に伝来、槐 桃 楮 柏 桑で五木)

食葉 (くは) 蚕葉 (こは) からこの名がある。

用途 日本では蚕の餌 (養蚕) あるいは家畜の飼料だが、西洋では果実 (改良種) として食べる (改良種は白い花をつける) 材は工芸品の原料、建築資材

(床柱等)、皮は製紙、布織等に使用する。

食用 葉はお桑茶、実はジャム、生食、果実酒に使用する。

薬用 根内皮 (桑白皮) は咳止め、利尿等に使用する。

花の期間 四月

花言葉 不思議、知恵

17 コナラ (万葉名 こなら「許奈良」ブナ科の落葉高木) 十三

下野の 三叢の山の 小檜のす

ま麗し児ろは 誰が筧か持たむ

万葉集 卷・十四・三四二四 (東歌)

(作者) 不詳

(歌意) 下野 (栃木県) の三叢 (地名) の山に生えているコナラのように美しいあの娘さんは、一体誰の食事の世話をするのでしょうか (誰の妻となるのでしょうか)。

(植物) 雑木林の主役で雌雄同種

樹勢が強く、根を残して短期間 (十年) 繰り返して伐採 (ぼう芽更新) ができ、古くは農家の重要な生活農業用資材であった。

用途 葉は肥料の原料、幹は薪炭、椎茸の原料、家具材、建築材等に使用する。

また東北地方では昔、若葉を「五倍子」の代わりとして「お歯黒」に使用した。

花の期間 五月

18 サカキ (万葉名 さかき「賢木」ツバキ科の常緑高木) 十六

ひさかたの 天の原より 生まれ来たる 神の命

奥山の 榊の枝に しらか付く 木綿とりつけて…

万葉集 卷・三・三七九 (長歌)

(作者) 大伴坂上郎女

(歌意) 高天原の枝よりお生まれになられた神様よ

奥山のサカキの木に木綿をとりつけて…

(植物) 日本原産 (アジアに分布)

栄え木として祭礼用を使用する為、あるいは神域と現世の境の木として (サカキ)

の名があり日本では古来から、サカキ（榊）を神事に使用している。西日本では、サカキを使用しているが、関東地方では分布が少ないため、よく似たヒサカキを代用している。

用途 葉は神事に使用され、幹材は器具材等に使用される。

花の期間 六月～七月

19 ミツマタ (万葉名 さつきくさ) 「三枝」ジンチョウゲ科の落葉低木 五

春されば まづ三枝の 幸くあらば

後にも逢はむ な恋ひそ吾妹

万葉集 卷・十・一八九五

(作者) 不詳 (人麻呂歌集)

(歌意) 春が来ると真つ先に咲くミツマタのように、幸いにも無事であればまたいつかは

会うことができるでしょうから、そんなに恋こがれないでください、私の恋人よ。

(植物) 中国原産 (ヒマラヤ地方にもある)

和紙の高級原料で虫害を受けにくく紙幣や証券用に使われ、コウゾと同じで樹皮を使用する。開花期間が長く庭木等が多いが、半野生化もしている。

薬用 葉を水虫、田虫等に外用する。

花の期間 三月～四月

花言葉 意外な出来事

20 マテバジイ (万葉名 しひ) 「椎・四比」ブナ科の常緑高木 二十五

家があれば 筥に盛る飯を 草枕

旅にしあれば 椎の葉に盛る

万葉集 卷・二・一四二二

(作者) 有馬皇子

(歌意) 家にいる時は、食器に盛り付けるご飯を、旅の途中にある身の上なので、椎の葉

に盛っています。(当時十九歳の皇子が謀反の罪で都から紀州にいる中大兄皇子

のもとに、護送される途中に詠んだ歌)

(植物) 椎は通常スタジイをいうが、葉が小さいため、この歌の椎はナラガシワの大きな

葉とする説があるが、マテバジイの葉は十数センチと大きいため、マテバジイ

の説を採用した。この木に自然に発生する食用きのこをシイタケ(椎茸)という。

用途 建築材、椎茸原木、薪炭材、家具材等に使用する。樹皮は染料。

食用 実は生で食べても炒めてもおいしい。

花の期間 六月



21 コウゾ (万葉名 たく〔栲・多久〕クワ科の落葉高木)

三十

水沫<sup>みなわ</sup>なす 脆<sup>もろ</sup>き命<sup>いのち</sup>も たく繩<sup>なま</sup>の

千尋<sup>ちひろ</sup>のもがと 願<sup>ねが</sup>ひ暮<sup>く</sup>しつ

万葉集 卷・五・九〇二

(作者) 山上憶良

(歌意) 水の泡のようにはかなく直ぐに消えてしまうような命でもコウゾの皮で作った繩

のように、長く生きられる様と願って暮らしてまいりました。

(植物) コウゾは現在でも和紙製造のため青森県以南で広く栽培されている。

コウゾで漉いた和紙は強く上質紙である。

茨城県では山方地方で現在も和紙民芸として盛んである。

関東では栽培放棄され野生化したコウゾが多く見られる。

野生種はあまり結果しないが、栽培種では見受けられ実は食することが出来る。

花の期間 四月～五月

22 コウゾ (万葉名 たへ〔妙・多倍〕クワ科の落葉高木)

三十の二

春<sup>はる</sup>すぎて 夏<sup>なつ</sup>来<sup>き</sup>たるらし 白<sup>しろ</sup>たへの

衣<sup>ころも</sup>ほしたり 天<sup>あめ</sup>の香<sup>かぐ</sup>具<sup>ぐ</sup>山<sup>やま</sup>

万葉集 卷・一・二八

(作者) 持統天皇

(歌意) 春が過ぎさつて夏が来たようです。コウゾで織った真っ白の衣が干してあります、

天の香具山に。

(植物) 「たえ」はコウゾの繊維で織った布(衣)

コウゾは現在でも和紙製造のため青森県以南で広く栽培されている。

コウゾで漉いた和紙は強く上質紙である。

茨城県では山方地方で現在も和紙民芸として盛んである。

関東では栽培放棄され野生化したコウゾが多く見られる。

野生種はあまり結果しないが、栽培種では見受けられ実は食することが出来る。

花の期間 四月～五月

23 タケ (万葉名 たけ〔太氣・竹〕イネ科の常緑多年草)

三十一

植<sup>うえ</sup>竹<sup>たけ</sup>の 本<sup>もと</sup>さへ響<sup>とよ</sup>み 出<sup>い</sup>でて去<sup>い</sup>なば

いづし向<sup>む</sup>きてか 妹<sup>いも</sup>が嘆<sup>なげ</sup>かむ

万葉集 卷・十四・三四七四 (東歌)

(作者) 不詳

(歌意) 植えてある竹の根元までとどろくように騒がしくあわただしく家を出て行ってし

まったならば、どちらを向いて(途方にくれて)あなたは嘆くでしょうか。(防人を命じられたときの歌か)

(植物) 中国原産(マダケ)、熱帯原産(孟宗竹)等、日本原産(オカメザサ、業平竹等)

竹は一定の周期に花を咲かせ、全体が枯れる習性をもつが、実あるいは地下茎により数年後には復活する。(開花竹林)

食用 タケノコ(筍)で食物繊維が豊富で沢山の料理方法がある。

用途 幹材は広く工芸の原料で食器、楽器、刃物、家具、建築材等に使用される。

青竹を使用した笹酒は風流と同時に薬効もある。

24 チガヤ (万葉名) ちがや〔茅草〕イネ科の多年草)

四十一

天なるや 神楽良の小野に 茅草刈り

草刈りばかに 鶉を立つも

万葉集 卷・十六・三八八七

(作者) 不詳

(歌意) 天にある神楽良の小野でチガヤを刈っていたら、その刈っている場所で鶉が急に

飛び立ち驚いてしまいました。

(植物) もとは「ち」といった。万葉では「浅茅原」など複合語の中に見える。

地中海沿岸が原産で乾いたところに多く生育し、根茎が強く、他の植物の侵入を許さないほどで、野芝と相性が良く、近くに生えている。

用途 花穂(白い綿毛)は火打ち石の火をうつし取る「火口」に用いた。

薬用 根茎を利尿剤(膀胱炎、胃下垂等)に使用する。

花の期間 四月～六月

25 イチヨウ (万葉名) ちち〔知知・知智〕イチヨウ科の落葉高木)

八十

大君の任けのまにまに 島守に

我が立ち来れば ははそ葉の 母の命は

み裳の裾 摘み上げかき撫で ちちの実の

父の命は たくづのの 白ひげの上ゆ 涙垂り：：(長歌)

万葉集 卷・二十・四四〇八

(作者) 大伴家持

(歌意) 天皇陛下の命を受けて、防人に出発するとき、母上は着物の裾をたくし上げて私

を撫でて別れを惜しみ、父上は白い髭の上から涙を垂らして：。(「ちちの実」)

(植物) は同音の「父」にかかる枕詞)

中国原産(雌雄異体。ジュラ紀が全盛期で全世界に分布していたが氷河期に全滅。中国の一部に生存して現在に至る。)

日本には室町時代に渡来。稀に葉に実がなる「お葉付きイチヨウ」があり全国で十数個所といわれているが、県内では唯一水戸の白旗山八幡宮が有名である。

用途 建築材、基盤、将棋盤、工芸品等に利用される。

食用 実(銀杏)

薬用 葉を鎮咳に利用する。

花の期間 四月

26 ケヤキ(万葉名) つき〔槻〕ニレ科の落葉広葉高木)

三十七

天つるや 軽の社の 斎槻

幾代まであらむ 隠妻そも

万葉集 卷・十一・二六五六

(作者) 不詳

(歌意) 軽の社に祀つてある御神木のケヤキは育つのに長い年月がかかっていますが、

いったいいつまで世間をはばかって置かなければならない隠し妻なのでしようか。

(植物) 「つき」と「けやき」は植物学的区分は不明で、別ものという説があるが、ここは

「けやき」同一説をとる。日本を代表する樹木で、高さ約五十メートル、直径約五

メートルに達する巨木もあり天然記念物に指定されるものも多い。  
用途 庭木、街路樹、盆栽、防風垣、幹材は建築、彫刻、器具、楽器、漆器の生地  
等々に使用され、関東では屋敷林として重用される。  
花の期間 四月～五月

27 ヒトリシズカ (万葉名 つぎね「次嶺」センリョウ科の多年草) 七十五

つぎねふ 山城道を 他夫の

馬より行くに 己夫し 徒歩より行けば

見るごとに 音のみし泣かゆ… (長歌)

万葉集 卷・十三・三三二一四

(作者) 不詳

(歌意) ヒトリシズカの生えている山城の国への道を、人の夫は馬に乗って楽に越えて行くのに、私の夫は歩いて苦労しながら行くので、見るたびに泣けてしまいます…。

(植物) 「つぎね」「つぎねふ」は「山城」にかかる枕詞)の意味はヒトリシズカともフタ

リシズカともあるいは沢山の峰等という解釈もあるが、ここでは「一人静」をとる。  
この植物は別名「吉野静」とも言われ「静御前」が舞う姿に例えたものと言われる。  
薬用 根を腫れ物、できものの外用に使用する。

花の期間 四月～六月

28 ツツジ (万葉名 つつじ「管仕・乍自」ツツジ科の落葉低木) 四十の二

風早の 美保の浦廻の 白つつじ

見れどもさぶし なき人思へば

万葉集 卷・三・四三三四

(作者) 河辺宮人 かわべのみやひと

(歌意) 風が強く吹きつける美保の浦に白いツツジが咲いていますが、それを見て心は少しも楽しくありません。亡くなった人のことばかりを思っていますので。

(植物) 日本原産 (本州中部以西に分布)

ツツジ科は落葉低木、半落葉低木、にわかれ日本には二種あり温帯や亜寒帯に分布する。花の色や名前も色々あり特に名前は、その地名が頭につくものが多くある。また、サツキは樹勢も強く栽培しやすく、実生、挿木、取り木、接木などの植し方法などができるため、古くより盆栽の愛好家が多い。

花の期間 四月～六月

花言葉 厳しい生き方、摂生

29 ツバキ (万葉名 つばき「都婆吉・椿」ツバキ科の常緑広葉高木)

あしひきの 八つ峰の椿 つらつらに

見とも飽かめや 植ゑてける君

万葉集 卷・二十・四四八一

(作者) 大伴家持

(歌意) たくさんの峰々に連なって咲く椿は見飽きることがありませんが、この庭に椿を植えたあなたも見飽きることがありません。

(植物) 日本の野生種は七属約二十種で、園芸種は沢山ある。漢名の「椿」は中国ではチャン

チンのことで漢名は「山茶」という。花がぼとりと落ちることから「首が落ちる」に縁起を担ぎ、武家屋敷では忌み木としあまり植えられていない。古くは葉に靈力があるとされ葉を觀賞する木であった。(神聖な木)

用途 種子は椿油、幹材の灰汁は染色に使用され、椿炭は漆器の研磨剤に最適である。また、材質が緻密で柔軟なため、遊びの独楽等に使用される。

薬用 花、種子は整腸剤、軟膏の基礎剤、頭髮等に使用する。

花の期間 十二月～四月

花言葉 謙虚な美德 (赤花) 至高の愛らしさ (白花)

30

ナツメ (万葉名 なつめ [棗] クロウメモドキ科の落葉高木)

九十五

玉箒 刈り来 鎌麻呂 むろの木と

棗が本と かき掃かむため

万葉集 卷・十六・三八三〇

(作者) 長忌寸意吉麻呂

(歌意) コウヤボウキを刈りとって来なさいよ、鎌麻呂さん、ムロの木とナツメの木の根もとを掃いて掃除しますから。

(植物) 南欧・東南アジア原産

ナツメは他の樹木より遅く新芽がふくので「夏芽」からの名前である。

中国では生食、薬用として重用 (干しナツメ)

日本も古代は干しナツメ、その後柿が代用され干柿が主流になる。

薬用 (大棗)・利尿、強壮、咳き止め、不眠等に利用する。

食用 生食 (リンゴに似た味)、保存食 (干し物)、棗酒等に利用する。

花の期間 六月

花言葉 悩みを和らげる

31 ナデシコ (万葉名 なでしこ〔瞿麦・石竹〕ナデシコ科の多年草) 四十五

我がやどの なでしこの花 さかりなり

手折りて一目 見せむ児もがも

万葉集 卷・八・一四九六

(作者) 大伴家持

(歌意) 私の家の庭のナデシコの花が満開です。この花を手折って一目でいいから見せて

やれるような女の子がいたらいいのになあ。

(植物) 秋の七草の一つ (古名が常夏)

学名の「スペルブス」は「最上等」という意味で命名者のリンネがこの花がとても好きな為にこの学名がある。

大和撫子 (やまとなでしこ) は日本女性の清楚な美しさを例える象徴にされる。

日本独自のナデシコと中国から渡来した石竹 (唐撫子) を区別するためそう呼ばれた。

薬用 実を「くばくし」といって利尿剤や通経剤として利用する。

花の期間 七月〜十月

花言葉 変わらぬ友情、純粋な愛情

32 ハギ (万葉名 はぎ〔芽子・波義〕マメ科の落葉低木) 四十七

秋風は 日にけに吹きぬ 高円の

野辺の秋萩 散らまく惜しも

万葉集 卷・十・二二二

(作者) 不詳

(歌意) 秋風は日ましに強く吹いてきます。高円の野辺に咲いているハギの花が散っていくのが惜しまれることです。

(植物) 萩は万葉集の中で最も多く詠まれている。

秋の七草の第一番目におかれ、秋の代表的な花で「秋に咲く草」ということで「萩」の字 (国字) が創られた。(漢字とは別) あるいは、古い株から芽が出るので「生え木・はえぎ・ハギ」からこの名があるとも言われる。

照葉樹林帯周辺に分布し、沢山の種類があるが、現在公園庭園等に植えられているのはミヤギノハギ系が多い。

用途 庭園木、花材、枯れ幹 (茎) は垣根、ほうき等の材料に使用する。

食用 若芽はお茶の代用になる。

花の期間 八月〜九月

花言葉 過去の思い出、思いにふける、上品な物腰

33 シヤガ (万葉名 はなかつみ〔花勝見〕アヤメ科の多年草) 八十九

をみなえし 左紀沢に 生ふる花かつみ

かつても知らぬ 恋もするかも

万葉集 卷・四・六七五

(作者) 中臣郎女

(歌意) 佐紀の沢 (地名) に生えている花かつみではありませんが、かつてしたことのない

ような恋をすることです。「花かつみ」は同音の「かつて」を引き出す序詞)

(植物) マコモ、シヨウブ等の諸説があるがここではシヤガをとる。

中国原産

半日蔭を好み、繁殖は株分けで増やす。  
花の期間 四月  
花言葉 消極的な反抗

34 ザクロ (万葉名 はねず〔翼酢〕ザクロ科の落葉小高木) 四十九

思はじと 言ひてしものを はねず色の  
うつろひやすき 我が心かも

万葉集 卷・四・六五七

(作者) 大伴坂上郎女

(歌意) もうあなたのことを思い慕うことはないでしょう、と言っていましたのに、ザクロの花の色のように、気が変わりやすい私の心なのです。

(植物) 万葉名「はねず」の意味には、庭梅、庭桜、木蓮などの諸説があるが、ここは「ザクロ」説をとる。

ペルシャ原産(中国経由で薬用として渡来)  
歴史の古い果樹なので洋の東西を問わず色々な伝説がある。欧米では種子が多いので、多産のシンボルとされる。

用途 果実は生食、果実酒、樹木は庭木、盆栽、花材等に使用する。

薬用 幹皮で虫下し水虫薬等に使用する。実は健胃整腸、口臭を消す等の作用がある。

花の期間 六月～八月

花言葉 愚かしさ、協同

35 アカメカシワ (万葉名 ひさぎ〔久木・歴木〕トウダイグサ科の落葉高木) 五十一

ぬばたまの 夜のふけゆけば ひさぎ生ふる

清き川原に 千鳥しば鳴く

万葉集 卷・六・九二五

(作者) 山部赤人

(歌意) 夜が更けるにしたがって、アカメカシワの生い茂っている清らかな川原でしきりに千鳥が鳴いています。

(植物) 新芽が赤く(紅色)美しいことと、夏になると赤い色がとれて大きな葉になり、

この葉を柏の葉と同様に食べ物を包んだり盛ったりして利用していた。

用途 幹材は建築、燃料、器具、薪炭材等に使用し、葉や種子は染料等にも使われる。

薬用 樹皮を煎じて腫物薬、内用薬として胃潰瘍等、果実の毛は駆虫剤として使用する。

花の期間 六月～七月

36 ノビル (万葉名 ひる〔蒜〕ユリ科の多年草) 五十五

醬酢に 蒜つき合せて 鯛願ふ

我にな 見えそ 水葱の羹

万葉集 卷・十六・三八二九

(作者) 長忌寸意吉麻呂

(歌意) 「ひしほ」(味噌の一種)と酢にさらにノビルを加えて作った高級な調味料に鯛を漬けて食べたいと願っている私に、そんなまじりな「なぎ」の吸い物など見え

(植物) ないようにしてください。  
通称「ノノヒロ」と言い広く山野、畑等に群生する。

茎は葱や分葱の細いものと同じで、地下の鱗茎の球根が分裂し繁殖する。また、初夏にピンク色の花が咲き、その実でも繁殖する。

食用 茎は薬味、茹でておひたしや和え物にする。

薬用 扁桃腺炎、つぶしてかゆみ止めに使用する。

花の期間 5月～6月

37 フジバカマ (万葉名 ふぢばかま「藤袴」 キク科の多年草) 五十四

萩の花 尾花 葛花 なでしこの花

をみなへし また藤袴 朝顔が花

万葉集 卷・八・一五三八

(作者) 山上憶良

(歌意) 秋の七草を旋頭歌(五七七・五七七)の形式に詠み込んだもの。次にかかげる

一五三七番歌の「七種の花」を一つ一つ数え上げた。秋の七草はいずれも薬用植物。

秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七種の花

万葉集 卷・八・一五三七

(作者) 山上憶良

(歌意) 秋野の野に咲いている花を指折って数えてみると七種類の花があります。

(植物) 藤袴の花には桜の花と同じ芳香成分(クマリン酸)があり甘い香りがある。

全草(漢方で蘭草)にも芳香がある。

薬用 利尿、解熱、浮腫等に使用する。

花の期間 八月～九月

花言葉 恋の仲介者、恋の相談

38 マツ (万葉名 まつ「松・麻都」マツ科の常緑高木) 五十七

磐代の 浜松が枝を 引き結び

真幸くあらば また還り見む

万葉集 卷・二・一四一

(作者) 有馬皇子

(歌意) 紀伊国岩代の海辺に生えている松の枝を引き結んでおいて、さいわいにも無事であつたら再び帰ってきて見ましよう。(木や草を結ぶのは幸せを祈る儀式。皇子は謀反の

疑いで紀伊国に送られ処刑された)

(植物) 「松竹梅」に表現されるように日本ではとてもめでたい樹木で、日本人の原風景に「白砂青松」がある。沢山の種類があり、黒松(雄松)と赤松(雌松)の合いの子をアイ

グロ松と言う。マツは朝鮮から伝来して本州以南に広く繁殖し、これがマツノザイセンチュウの全国的な被害に遭っている。(杉、檜と共に日本三大樹木)

用途 建築材、器具、庭園樹、盆栽、パルプ、土木資材。

民俗 幹に出来る溜に甘い樹液が出て、舐めることができるので、昔から農山村の子供の冬のおやつだった。

薬用 松脂(ヤニ)からテレピン油やワニス等がとれ「あかぎれ」に効く。

若葉は酒の添加香料、痛風、白内障に使用する。  
花の期間 四月～五月  
花言葉 同情、光

39 マユミ(万葉名 まゆみ〔真弓・檀〕ニシキギ科の落葉灌木) 五十八

みこも刈る 信濃の真弓 わが引かば

貴人さびて 否と言はむかも

万葉集 卷・二・九六

(作者) 久米禅師

(歌意) 信濃の国のマユミで作った弓を手もとに引くように、あなたの心を引きつけようとしたなら、あなたはお上品ぶって「いやですわ」というでしょうか。

(植物) 昔、この幹材で弓を作ったことからこの名がある。(常陸国は、古代弓の産地で

常陸産の弓は「常陸真弓」として有名)

用途 庭木、盆栽、玩具、小箱、櫛などの原材料として利用される。

特に将棋の駒あるいは日本家具の木釘に最適である。

花の期間 五月～六月

花言葉 純粹

40 カクレミノ(万葉名 みつながしは〔御綱葉〕ウコギ科の常緑高木) 八十八

三十年秋九月乙卯の朔の乙丑、皇后

紀伊の国に遊行きて 熊野の岬に至りその処の

御綱葉を取りて還りたまひき

万葉集 卷・二・九十・左注

(意味) 三十年九月十一日皇后陛下が紀伊の国に行啓されて、熊野の岬に至って

そのカクレミノの木を採ってお帰りになった。

葉の先が割れていて、それを蓑(蓑の雨がっぱ)に例えたもので、

庭木に小木が使われるため低木と思われがちだが高木になる。

この葉は縁起もので、神事や宴会に使用される。

用途 庭木、建築材等に使用する。

花の期間 六月～七月



41 カラムシ (万葉名) むし〔蒸〕イラクサ科の多年草)

五十九

むしぶすま 柔やが下に 臥せれども  
妹とし寝ねば 肌し寒しも

万葉集 卷・四・五二四

(作者) 藤原麻呂

(歌意) 柔らかく心地よい上等な布団(ムシの繊維で織った布のフトン)の中に寝ていても

あなたと一緒でないので、肌寒い淋しい思いです。

(植物) 東南アジア原産

名前は唐(から)からきたムシの意とする説と、茎(から)を蒸して繊維を採ったことから付いたとする説とがある。弥生時代の遺跡から日本最古の布が発見されたがこの布はカラムシの繊維を織ったものとされる。

その後、大麻(あさ)が栽培され中世期より「綿」が出現する。

薬用 葉を煎じて利尿、根をつぶしてそのまま打ち身に張る。

古代では黒焼きにして酒で飲んだ。

花の期間 八月〜九月

42 カエデ (万葉名) もみち〔黄葉・毛美知〕カエデ科の落葉高木) 十二の二

春日野に 時雨ふる見ゆ 明日よりは

黄葉かざさむ 高田の山

万葉集 卷・八・一五七一

(作者) 藤原八束

(歌意) 春日野に、時雨が降るのが見えます。明日から紅葉が美しくかざるようになるでしょう。あの高田の山は。

(植物) 葉が蛙の手に似ていることから「かえるて」(蛙手)の名ができ、さらに「る」が脱落して、カエデとなった。また葉が赤く変化するため「紅葉(もみじ)」の名前もある。「もみじ」とは色が変わることの総称である。

薬用 ハナカエデの名前で呼ばれる目薬の木などは、樹皮、枝を乾燥させたものを目薬、肝臓薬として使用する。

用途 幹材は変木の床柱など建築材、器具材、盆栽等に利用する。

花の期間 四月〜五月

43 モモ (万葉名) もも〔桃〕バラ科の落葉低木)

六十

春の園 紅にほふ 桃の花

下照る道に 出で立つ少女

万葉集 卷・十九・四一三九

(作者) 大伴家持

(歌意) 春の庭園には紅色に桃の花が咲いています。

その桃の花が明るく照り映える木の下に出で立つ美しい少女よ。

(植物) 桃は古代より桃太郎伝説のように悪霊を追い払う霊力があるものとされた。(長命延寿の霊木といわれた。) 中国・ペルシャ原産、日本原産(ヤマモモ) 栽培種は中国より

古代から仙木、仙果と呼ばれた樹が渡来。

西欧ではセックスのシンボルとされる。

民俗 雛祭りは「桃の節句」と呼ばれ桃の花を供え子供の無病息災を祈る習慣がある。

薬用 桃仁を煎じて婦人病に用いる。葉は生葉を風呂に入れるとあせもに良い。  
花（白桃花）は乾燥したものを煎じて下剤、種子は咳止めに良い。  
花の期間 三月～四月  
花言葉 守られた幸福、辛抱、気立ての良い娘

44 ヤブラン（万葉名 やますげ「夜麻須我・山菅」ユリ科の多年草） 一

咲く花は うつろふ時あり あしひきの

山菅の根し 長くはありけり

万葉集 卷・二十・四四八四

〔作者〕 大伴家持

〔歌意〕

咲く花の美しさは時とともにうつろいゆきますが、ヤブランの根は土の中で見えないけれども長くのびているものだなあ。「やますげ」は「やますげ」の（）転じた形。アメ（雨）―アマガサ（雨傘）、サケ（酒）―サカヤ（酒屋）の関係に同じ）

〔植物〕 用途 庭園用資材等

花は紫色の上品な小花で、実（種子）も黒紫色で碧色の宝石のように見え公園等に多用されている。

薬用 根のふくらんだところを乾燥したものを大葉麦門冬おおばくもんとうといい、滋養強壮や痰きり、お乳が出るようになる等の効用がある。

花の期間 八月～九月

花言葉 かくされた心

45 ヤマブキ（万葉名 やまぶき「山振・山吹」バラ科の落葉高木） 六十四

山吹の 立ちよそひたる 山清水

酌みに行かめど 道の知らなく

万葉集 卷・二・一五八

〔作者〕 高市皇子

〔歌意〕

山吹が美しく飾るように咲いている山の中の清水を汲みに行こうと思いますが、道がわからないことです。（十市皇女が亡くなった時の歌。山吹の「黄」と清水の「泉」とで「黄泉の国」を暗示。）

〔植物〕

日本原産（中国原産もある）東南アジアに広く分布。「ツキテツポウ」の別名がある様に茎の芯（ ）が白色で柔らかく、つきだすことが出来、昔の子供も遊び、現代では顕微鏡のビラス（試料を乗せる）に使用する。また、しなやかな枝が風に揺れる（振れる）様子からこの名がある。

〔参考〕

七重八重 花は咲けども山吹の

実の（蓑）一つだに 無きぞ悲しき

江戸城を作った太田道灌が狩りの途中の雨宿りで使ったとされる歌。この山吹は野生種の「八重咲」で結実しないが、一重咲きは稀に結実する。山吹色は金の輝き、黄金色に例えられるほど黄色の花が代表的であるが、一重の白咲きの「白山吹」もある。

アメリカでは黄金の八重咲を「日本のバラ」「黄色のバラ」と呼ぶほど人気がある。薬用 花の乾燥したものを止血薬に使用する。

花の期間 四月～五月

花言葉 気品、謙遜

46 ユズリハ（万葉名 ゆづるは〔由豆流波・弓絃葉〕 トウダイグサ科の常緑高木） 六十五  
いにしへに 恋ふる鳥かも ゆづるはの

御井の上より 鳴き渡り行く

万葉集 卷・二・一一一

（作者） 弓削皇子

（歌意） 昔のことを恋い慕う鳥なのでしょうか。ユズリハの茂る井の上を鳴きながら大

和の方へ飛んでいきます。

（植物） 古い葉が若葉の成長を待ってから落葉する様子が、世代交代の見本として、縁

起の良い木とされ正月を飾るおめでたい木とされる。

紅葉しないので黄昏の時代は無いという縁起木に使用される。

用途 庭木、公園樹等に利用される。

薬用 樹皮にアルカロイドを含み皮膚病、駆虫等に利用される。

花の期間 五月～六月

47 ヨモギ（万葉名 よもぎ〔余母疑〕キク科の多年草）

六十七

…ほととぎす 来鳴く五月の あやめぐさ

蓬かづらき 酒みづき 遊びなぐれど…

万葉集 卷・十八・四一一六

（作者） 大伴家持

（歌意） …時鳥が来て鳴く五月に、菖蒲やヨモギを髪飾りにして、酒宴を開いて遊び慰めるの

ですが…

（植物） 日本原産（本州以南に分布）

万葉集の中で「ヨモギ」がでる唯一の歌である。春先に若芽（ヒメヨモギ）を摘んで草餅にするので「モチグサ」の別名がある。葉に心地よい香り（精油）があり邪気を払うとされ端午の節句にシヨウブの葉と一緒に屋根に乗せた。西洋でも魔よけの草とされていた。（聖ジョンの草）

食用 草餅、草団子、胡麻和え、天ぷら、ヨモギご飯、汁の実等に使用する。

薬用 ビタミンやカルシウムが多く、昔から常用すれば万病に効くとされたヨモギ酒

は健胃、強壮、浴用は神経痛等に効果がある。お灸の「もぐさ」の原料でもある。

花の期間 八月～九月

花言葉 夫婦の愛情、楽しい旅

48 ノカンゾウ（万葉名 わすれぐさ〔萱草・忘草〕ユリ科の多年草） 九十七

忘れ草 我が下紐に付けたれど

醜の醜草 言にしありけり

万葉集 卷・四・七二七

（作者） 大伴家持

（歌意） 憂いを忘れる忘れ草という名を持つノカンゾウを私の下着の紐に付けておいたけ

れども、大ばか者の草よ、忘れ草とは名ばかりで少しも忘れられませんでした。

（植物） 中国原産

薬用食料用に栽培されたものが野生化したものである。中国の原種が欧州に渡り

「ヘメロカリス（ギリシヤ語の「美しい」が語源）」になった。

食用 若葉は大変おいしい。若葉は酢の物、花は花酒、ジャム等に使用する。

また、蕾の干したものを「金針菜」といい中国料理に使用する。（「金

針菜」はガンに有効という説もある）

薬用 根にアスパラギン等を含み解熱、利尿等、甘草エキスは煙草、醤油の甘味料

として使用する。

花の期間 七月～八月

花言葉 微笑

49 ススキ（万葉名 をばな〔乎花・乎婆奈〕イネ科の多年草） 三十四

人みなは 萩を秋と言ふ よし我は

尾花がうれを 秋とは言はむ

万葉集 卷・十・二二一〇

（作者） 不詳

（歌意） 人は皆萩のことをいちばん秋らしい花だと言います。たとえそうであっても、私は

ススキの穂の先の風情をいちばん秋らしいものだと言いましよう。

（植物） ススキはカヤ（萱）とも言い、昔は屋根をふく材料の代表的なもので、刈屋根から

この名がある。

ススキの穂先を尾花というが、動物の尾に似ていることから付けられた。

用途 屋根材、牧草、工芸品等に使用する。

薬用 根を日乾しして風邪の熱冷ましに使用する。

花の期間 七月～十月

50 オミナエシ（万葉名 をみなへし〔乎美奈倣之・女郎花〕オミナエシ科の多年草） 七十

女郎花 咲きたる野辺を 行きめぐり

君を思ひ出 たもとほりきぬ

万葉集 卷・十七・三九四四

（作者） 大伴池主

（歌意） 女郎花の咲いている野をめぐり歩いていたら、女郎花の美しい姿を見てあなたの

ことを思い出し、さまよいながらあなたのもとへ来てしまいました。

（植物） 秋の七草のひとつ。花は長く咲き続け、黄色い花が泡立つように密生するため、アワ

バナ（粟花）の別名がある。

昔、粟飯は女の食い物のため（粟）から女郎花の名、同じように白く咲くのがオ

トコエシ（男郎花）といい、白く密生するので、「米花」ともいう。

大和撫子（やまとなでしこ）は日本女性の清楚な美しさを例える象徴にされる。

お盆の仏前に飾る盆花にもなる。

薬用 根が腫れ物、解毒、利尿に良い。

食用 若葉を和え物などに利用する。

花の期間 八月～十月

花言葉 親切

五十	四十九	四十八	四十七	四十六	四十五	四十四	四十三	四十二	四十一	四十の一	三十九	三十八	三十七	三十六	三十五	三十四	三十三	三十二	三十一	三十の二	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四の二	十四	十三	十二の二	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	番号						
	ザクロ		ハギ		ナデシコ			チガヤ	ツツジ			ツバキ	ケヤキ		ススキ			タケ	コウゾ	コウゾ			ノイバラ		マテバジイ						ムクゲ	ウツギ	カタクリ	サカキ		アセビ	アセビ	コナラ	カエデ	カエデ	クワ				ヒガンバナ			ミツマタ	リンドウ	ニラ	キキョウ	ヤブラン	現在名						
	はねず		はぎ		なでしこ			ちがや	つつじ			つばき	つき		をばな			たけ	たへ	たく			うまら		しひ					あさがお	うのはな	かたくり	さかき		あしび	あしび	こなら	もみじ	かへるで	くは				いちし			さきくさ	おもひぐさ	くくにら	あさがほ	やますげ	万葉名							
	4 六五七		10 二二二一		8 一四九六			16 三八八七	3 四三四			20 四四八一	11 二六五六		10 二一一〇			14 三四七四	1 二八	5 九〇二			20 四三五二		2 一四二					10 二二七四	8 一四七七	19 四一四三	3 三七九		2 一六六	10 一九〇三	14 三四二四	8 一五七一	8 一六二三	7 一三五七				11 二四八〇	10 一八九五	10 二二七〇	14 三四四四	10 二一〇四	20 四四八四	歌番号									
			百	九十九	九十八	九十七	九十六	九十五	九十四	九十三	九十二	九十一	九十	八十九	八十八	八十七	八十六	八十五	八十四	八十三	八十二	八十一	八十	七十九	七十八	七十七	七十六	七十五	七十四	七十三	七十二	七十一	七十	六十九	六十八	六十七	六十六	六十五	六十四	六十三	六十二	六十一	六十	五十九	五十八	五十七	五十六	五十五	五十四	五十三	五十二	五十一	番号						
					ノカンゾウ	カラタチ	ナツメ						ウヰミズザクラ	カクレミノ	シヤガ					シラカバ	イチョウ	カツラ										オミナエシ			ヨモギ								モモ	カラムシ	マツ							アカメカシワ	現在名						
					わすれぐさ	からたち	なつめ							みつながしは	はなかつみ		かには				かには	ちち	かつら											よもぎ								もも	むし	まゆみ	まつ							ひさぎ	万葉名						
					4 七二七	16 三八三二	16 三八三〇							4 六七五	2 九〇	6 九四二					6 九四二		20 四四〇八	7 一三五九																							19 四一三九	4 五二四	2 九六	2 一四一				16 三八二九	8 一五三八			6 九二五	歌番号